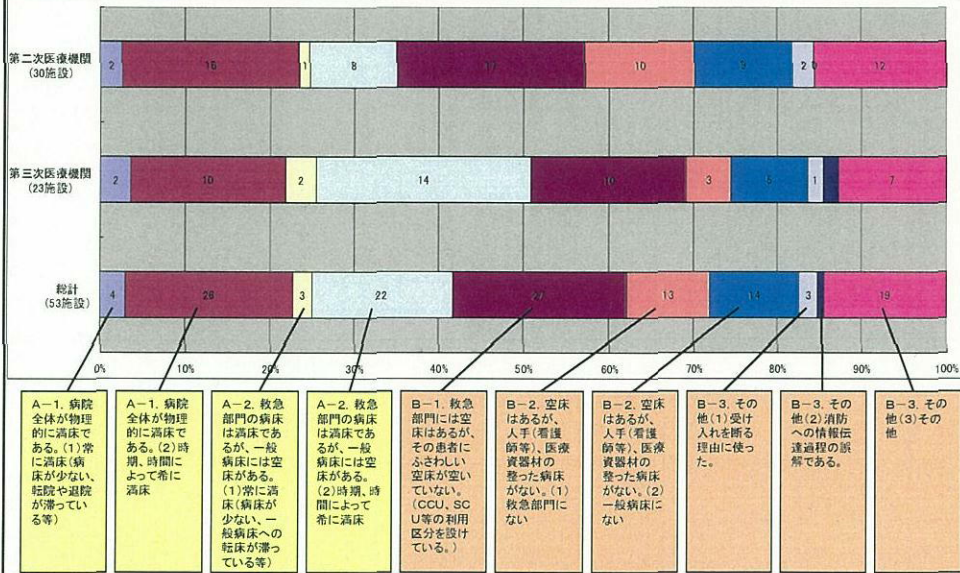


救急医療機関が受入に至らなかった理由としての「ベット満床」の意味について
(サンプル調査 結果①)

			第二次 医療機関 (30施設)	第三次 医療機関 (23施設)	総計 (53施設)
A. 物理的に満床である	1. 病院全体が物理的に満床である。	(1) 常に満床(病床が少ない、転院や退院が滞っている等)	2	2	4
		(2) 時期、時間によって希に満床	16	10	26
	2. 救急部門の病床は満床であるが、一般病床には空床がある。	(1) 常に満床(病床が少ない、一般病床への転床が滞っている等)	1	2	3
		(2) 時期、時間によって希に満床	8	14	22
B. 物理的には空床がある	1. 救急部門には空床はあるが、その患者にふさわしい空床が空いていない。(CCU、SCU等の利用区分を設けている。)		17	10	27
	2. 空床はあるが、人手(看護師等)、医療資器材の整った病床がない。	(1) 救急部門にない	10	3	13
		(2) 一般病床にない	9	5	14
	3. その他	(1) 受け入れを断る理由に使った。	2	1	3
		(2) 消防への情報伝達過程の誤解である。	0	1	1
		(3) その他	12	7	19

10都府県(宮城県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、奈良県)を通して調査を実施。
『救急医療機関が受入に至らなかった理由としての「ベット満床」』について、該当するものを、「各都府県5施設程度、各施設3項目選択」により調査し、集計。
平成20年5月30日 指導致課へ

救急医療機関が受入に至らなかった理由としての「ベット満床」の意味について
(サンプル調査 結果②)



『救急医療機関が受入に至らなかった理由としての「ベット満床」』について、該当するものを、10都府県に対して、「各都府県5施設程度、各施設3項目選択」により調査し、精算して集計。

救急医療機関が受入に至らなかった理由としての「ベッド満床」の意味について (サンプル調査 結果③)

第二次救急医療機関からの「ベッド満床について」のコメント

- 翌日入院予定のため救急に使用できない。
- 専門科目を求める人の増加と夜間の病院の人材不足が一番の原因。

第三次救急医療機関からの「ベッド満床」についてのコメント

- 相当の努力をして、空床確保に努めており、「ベッド満床」を理由に断ったことはない。現行の医療制度では、漫然と運営してベッドを満床にしておいた方が、努力して空床を作った場合より、収益は多くなる。空床確保について十分な支援をしてほしい。
- 急性期を過ぎて、後方病院にさせようとしても、なかなか転院できない。これが当院では最大の問題である。
- たとえ満床でも「必要な初療処置のみ実施」して、適切な医療機関への転送という対応もあり得る。
- 第三次救急医療機関として常に患者の受入に努力しているが(満床でも+2~3人までは受け入れている。)、物理的に受入困難なときのみ断る。
- 肺炎などの急性期病態を改善しても、それ以前の全身状態が在宅や療養施設でギリギリの状態でご介護されている患者も多く、引き受け手がないのが実情であり、満床の原因となっている。
- 大学病院には救急医療以外の高度専門医療を担う役割があり、それに大きな負担をかけて院内転床をすすめているが、限界がある。

10

救急医療機関が受入に至らなかった理由としての「ベッド満床」の意味について (サンプル調査の解釈について)

- 数字で見ると、常に”満床”という医療機関は少ない。
- 救急部門の中においても、CCU、SCU等の病床の利用区分をおこなっている。
(そのため、救急部門に空床があっても、実質的に受け入れられない場合がある。)
- 人手(看護師等)、医療資器材がないために受入が困難な場合がある。
- 医療機関のコメントからは、第三次医療機関では、空床確保及び患者受入に対して、相応の努力を行っている状況が伺える。

11